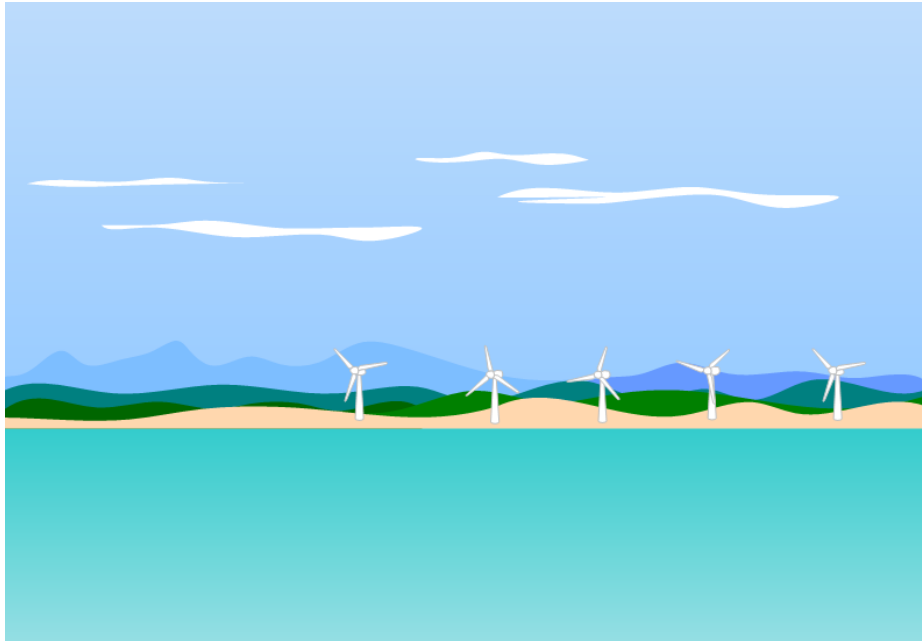




第3次江津市環境基本計画年次評価レポート

令和4年度(2022)の評価



江津市市民生活課

I はじめに

今日の環境問題は生活型公害の拡大、廃棄物問題、地球環境問題や東日本大震災に端を発したエネルギー問題などにみられますように、さまざまな事柄が絡み合い複雑多様化しております。そうした課題に果敢に取り組み、持続可能な社会の構築が今まさに求められています。

また、昨今の地球温暖化の影響による記録的豪雨の発生や 40℃近い真夏日が連日続くなど、私たちの身の回りでその影響の凄まじさを感じる事が年々多くなってきています。

こうした状況の中、市民が健康で快適な生活を営むため、環境の保全は不可欠です。地球規模での自然環境を守り、次世代へ引き継ぐことは行政、事業者、市民が自らのこととして解決していくことが必要不可欠です。こうした状況を踏まえ、江津市の環境政策の根幹を成す環境基本計画を令和5年3月に策定しました。計画期間は、令和5年度から令和14年度の10年間です。

第3次江津市環境基本計画年次評価レポートは、江津市の環境の状況等を明らかにするとともに、計画に掲げた目標の達成状況等の進捗状況を点検・評価します。また、市民・事業者の環境への関心を高め、環境への取組を推進することを目的とし、毎年発行することとしています。

めざす環境像

～ 江の川と日本海 美しい山の緑をとこしえに ～

『江の川は「江津」の名前の由来であり、江の川とともに発展してきた江津市のゆるぎないシンボルです。この江の川が注ぐ日本海もまた波子・浅利・黒松の海浜に代表されるように本市を特徴づける大切な資源です。母なる江の川の流域を形成し、中国山地に続く本市の南に広がる山々には、断魚溪・観音滝や千丈溪などの貴重な自然資源もあり、そこに生育・生息する生き物とともに本市の重要な環境資源です。

これらの自然の中でともに育まれた文化は、長い時間をかけて人々の暮らしとともに赤瓦の特徴的な景観を産んできました。その一方で、現在の私たちの生活は、多くの資源を消費し、様々な化学物質やごみ、二酸化炭素を環境中に排出しています。私たちはこのような社会のあり方を今一度「わがこと」として考え、江の川や日本海、美しい山々とともにあるべき環境を次世代に、そして永遠（とこしえ）に引き継いでいくことが求められています。』

II 江津市の環境への取組

第3次江津市環境基本計画の計画期間は、令和5年度から令和14年度の10年間です。毎年計画に掲げた目標の達成状況等の進捗状況を点検・評価して行きます。

本年度は令和4年度の状況について評価検証します。令和4年度は計画期間の「0年度」とし、第3次江津市環境基本計画の評価基準で評価しました。

【評価の判断】

☆:目標値に達した。

◎:中間年度に達した。

○:基準年度(単年度目標基準)より良くなった。

△:基準年度(単年度目標基準)と同程度又は基準年度(単年度目標基準)より良いが、前年度より悪くなった。

×:基準年度(単年度目標基準)より悪くなった。

1. 自然環境 ～豊かな自然を守る～

江の川や日本海、緑の山々などの豊かな自然をそこに棲む多くの生き物とともに守り、人と自然が共生するまちをめざします。

【施策の柱と施策・取組】

施策の柱	施策・取組
1. 動植物の保全	●野生動植物の保全 ●野生動植物の生息・生育基盤の保全 ●外来生物への対応
2. 森林の保全	●森林管理の推進 ●循環型林業の推進
3. 農地の保全	●農業の有する多面的機能の発揮 ●有機農業の推進 ●地産地消・6次産業化の推進 ●有害鳥獣被害への対応
4. 自然とのふれあい	●自然環境の保全・活用

【指標と目標値】

目標設定項目	基準年度 R3 (2021)	〇年目標実績 R4 (2022)	中間年度 R9 (2027)	目標値 R14 (2032)	R4 評価
江の川アユの遡上数 (浜原ダム魚道)	329千匹	329千匹	400千匹	400千匹	△
遡上数は増加傾向にあるため、継続的な取り組みが必要。					
再造林面積 (10年間延べ)	0ha	0ha	10ha	20ha	△
R4は主伐未実施。					
間伐の実施面積 (10年間延べ)	5.16ha	9.97ha	25ha	50ha	○
引き続き計画的な間伐の実施を行う。					
有機農業実施面積	54ha	54ha	63ha	72ha	△
水害の影響による認定取り消し等の影響があった。					
産直品の売り上げ	96百万円	102百万円	100百万円	100百万円	☆
コロナ禍行動制限緩和による客数回復効果があった。					
学校給食での産直率	35.3%	30.0%	40%	40%	×
天候不良等による収量減等によって供給率が低下した。					

(評価について)

江の川アユの遡上数については、昨年並みの遡上数となっており、江の川の河川環境に配慮した工事や水質保持への取組が求められます。

森林整備については、伐期を迎えた森林の主伐と再造林からの保育を計画的に実施していくことで推進を図っていきます。

産直品の売上については、コロナ禍の行動制限が緩和されたことによる客数回復傾向にあります。山陰道の延伸に伴い通過交通が増えることが予想されますので、引き続きPRや利用者の利便性向上の取組を行っていきます。

学校給食での産直率については、天候不順による収量減等により昨年度比5.3%低下した。天候による影響は避けることができないが、農業の担い手確保や小学生の農業体験等の授業を通じて市内農産物の普及も併せて行っていきます。



2.生活環境 ～環境にやさしい暮らしをする～

川や海の水や空気がきれいでごみも少なく、環境への負荷が小さい循環型の持続可能なまちをめざします。

【施策の柱と施策・取組】

施策の柱	施策・取組
1. 環境負荷の低減	<ul style="list-style-type: none"> ●大気環境の保全 ●水環境の保全 ●悪臭の防止 ●騒音振動の防止
2. 適正な生活排水・廃棄物処理	<ul style="list-style-type: none"> ●適正な生活排水処理 ●適正な廃棄物処理

【指標と目標値】

目標設定項目	基準年度 R3 (2021)	0 年目実績 R4 (2022)	中間年度 R9 (2027)	目標値 R14 (2032)	R4 評価
大気汚染測定値 (SPM) (環境基準値 0.1 mg/m ³)	0.014 mg/m ³	0.011 mg/m ³	0.01 mg/m ³	0.01 mg/m ³	○
	短期的及び長期的の評価による環境基準を達成。				
公用車における次世代自動車の導入推進	10.8%	12.5%	30%	70%	○
	新規の導入は無かったが、公用車保有台数が減ったため。				
江の川の水質 (河川 A 類型 BOD2 mg/ℓ以下)	0.7 mg/ℓ	1.0 mg/ℓ	0.7 mg/ℓ	0.7 mg/ℓ	△
	環境基準は達成したが、前年数値に満たなかった。				
市内河川水質の環境基準達成率 (河川 AA 類型 BOD1 mg/ℓ以下)	100%	100%	100%	100%	☆
	市内 6 河川について、いずれも環境基準を達成した。				
海域水質 (波子海水浴場) (海域 A 類型 COD2 mg/ℓ以下)	1.5 mg/ℓ	1.6 mg/ℓ	1.5 mg/ℓ	1.5 mg/ℓ	△
	環境基準を達成。				
自動車騒音測定値の環境基準達成率	100%	100%	100%	100%	☆
	県道皆井田江津線で実施、環境基準を達成した。				
公害苦情件数の低減	11 件	13 件	9 件	7 件	×
	2 件増加となった。悪臭等 (野焼き) の割合が多くなっています。				

汚水処理人口普及率	55.1%	55.6%	63.8%	78.4%	○
	公共下水道面整備の遅延により伸びが鈍化した。				
廃棄物排出量	7,376t	7,246t	6,574t	6,076t	○
	前年比 1.8%の減量となった。				
資源リサイクル率	19.6% (R2:2020)	19.1% (R3:2021)	21.2%	21.9%	×
	前年比 0.5%の低下となった。				
マイバック持参率	88.8% (R元:2019)	85.0%	92%	95%	×
	基準年度より 3.8%低下した。				

(評価について)

大気汚染測定値、江の川の水質、市内河川水質の環境基準、自動車騒音測定値、海域水質については、いずれも環境基準を達成しました。江津市の自然環境は良好な状況が保たれています。

公害苦情件数については、2 件の増加となりました。公害苦情の内容としては、悪臭(野焼き等)の件数が 69%と大部分を占めており、日常生活の中での配慮等が求められます。

廃棄物排出量については、1.8%の減量でした。一方資源リサイクル率については、0.5%低下しており循環型社会の形成に向け、リサイクルの推進を一層図る必要があります。

マイバック持参率については、基準年よりも 3.8%低下し、85.0%となりました。マイバックの持参(レジ袋を買わない)はある程度定着していますので、引き続き取り組みの周知等を行っていくことで、マイバック持参率が向上するものと考えます。



3. 快適環境 ～きれいできもちのよい環境を守る～

まちの緑化や環境美化に努め、歴史と文化に育まれた赤瓦の景観を守り、快適でうるおいのあるまちをめざします。

【施策の柱と施策・取組】

施策の柱	施策・取組
1. 緑化の推進	●公園・緑地の整備 ●まちの緑の整備
2. 景観の保全	●自然景観の保全 ●街並み景観の保全 ●歴史・文化景観の保全
3. 環境美化の推進	●環境美化の推進 ●空家対策

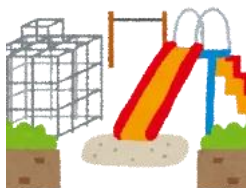
【指標と目標値】

目標設定項目	基準年度 R3(2021)	0年目実績 R4(2022)	中間年度 R9(2027)	目標値 R14 (2032)	R4 評価
空家の有効利用 (10年間延べ)	17件	16件	50件	100件	○
単年度目標基準を超える利用となった。					
市民のボランティア清掃申請 者数	1,546人	1,554人	1,750人	2,000人	△
コロナ禍ということもあり、前年並みの結果となった。					

(評価について)

空家の有効利用については、江津市の空き家バンクの長年の取組により、空き家バンクの利用が定着しています。今後も空家の有効利用が進むよう、空き家の登録の促進をさらに進めていく必要があります。

市民ボランティア清掃の申請者数については、コロナ禍ということもあり活動自体が自粛されており前年並みとなりました。コロナ 5 類移行に伴い、市民のボランティア清掃が活発になることが予想されます。



4. 地球環境 ～かけがえのない地球を守る～

地球環境問題を「わがこと」としてとらえ、カーボンニュートラルに向けて一人ひとりが生活の中で実践していくまちをめざします。

【施策の柱と施策・取組】

施策の柱	施策・取組
1. 地球温暖化対策の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●地球温暖化対策の推進 ●省エネルギーの取組
2. 再生可能エネルギーの活用	<ul style="list-style-type: none"> ●再生可能エネルギーの導入促進 ●再生可能エネルギーの普及・啓発

【指標と目標値】

目標設定項目	基準年度 R3(2021)	0年目実績 R4(2022)	中間年度 R9(2027)	目標値 R14 (2032)	R4 評価
江津市の温室効果ガス排出量(上段:環境省排出量カルテ、下段:江津市推計)	189千t-CO ₂	171千t-CO ₂	162千t-CO ₂	134千t-CO ₂	×
	338千t-CO ₂ (R元:2019)	340千t-CO ₂ (R2:2020)			
前年比 9.5%減少した。江津市推計は 0.6%増加した。					
市の事務事業に伴う温室効果ガス排出量	3,728t-CO ₂	3,491t-CO ₂	3,157t-CO ₂	2,649t-CO ₂	○
	前年比 6.34%削減した。				
道路及び公園施設の照明に占める LED の割合	20%	46.9%	50%	75%	○
	道路・公園(屋内施設)の LED 化が大幅に進んだ。				

(評価について)

江津市の温室効果ガス排出量については、前年度比 9.5%の減少(江津市推計値では、0.6%の増加)となりました。特に減少幅が大きかったのが産業部門で前年度比 20%減でした。一方家庭部門については、前年度比 2.3%増となっており、家庭での取り組みの促進が求められます。他方江津市推計値では、運輸部門を除く全ての部門で増加しており、より踏みこんだ温暖化対策が求められます。

市の事務事業に伴う温室効果ガス排出量については、前年度比 6.34%の減となりました。旧庁舎の閉庁、コロナ禍の各種施設の利用頻度の低下などが要因です。

道路及び公園施設の照明に占める LED の割合については、前年度比 26.9%増となりました。特に公園施設有料施設屋内照明については、LED 化が完了となりました。



5. 環境保全活動 ～環境について考え行動する～

市民・事業者・市がそれぞれ意識啓発を図り、連携して主体的に環境に配慮した実践活動に取り組むまちをめざします。

【施策の柱と施策・取組】

施策の柱	施策・取組
1. 環境保全活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●地域コミュニティや江津市地球温暖化対策推進協議会との連携 ●環境保全活動の推進
2. 環境学習の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●地域での環境学習 ●学校での環境学習 ●人材や団体の育成

【指標と目標値】

目標設定項目	基準年度 R3(2021)	0年目実績 R4(2022)	中間年度 R9(2027)	目標値 R14 (2032)	R4 評価
市民のボランティア清掃申請者数【再掲】	1,546人	1,554人	1,750人	2,000人	△
	コロナ禍ということもあり、前年並みの結果となった。				
小中学校の「緑のカーテン」実施校	8校	3校	11校	11校	×
	コロナ禍、周知不足が相まって、半減した。				
小中学校での環境学習の実施(地域・企業連携)	0校	0校	3校	7校	△
	環境学習についての枠組みや実施内容を検討中。				

(評価について)

小中学校の「緑のカーテン」実施校については、コロナ禍ということもあり、周知不足も相まって半減となりました。学校での活動実績はありますので、取組の輪を広げていきます。

小中学校での環境学習の実施については、環境学習の枠組みや実施内容について検討を行っており、地域や企業と連携して事業の組み立てを行っていきたい。



発行日:令和5年 8 月

江津市市民生活課

〒695-8501 江津市江津町1016番地 4

TEL:0855-52-7936

メールアドレス:siminseikatsu@city.gotsu.lg.jp